

立科町・りんご・女神湖について

お話バスケットの皆さん

実施日：令和3年9月21日（火）



第12回目は、“お話バスケット”の皆さんを講師に招き、創作紙芝居を上演していただいた。2回目の今回は、「ぼくの自慢の立科りんご」と「芦田城」の二本立てで読み聞かせをしてくださった。「ぼくの自慢の立科りんご」は、立科町がりんごを育てるのに適した土地・気候であることや、“無袋りんご”とって、日光をまんべんなく浴びせてりんごを赤く色付けさせる手法など、りんごを育てていく上で農家の方々の工夫がたくさん詰まっていることを知った。

「芦田城」のお話は、芦田城の当主についてや、武田信玄・徳川家康など、名立たる戦国武将との関係性などを学んだ。今でも保存会の皆さんの手によって、木の宮社や芦田城址（竹林）が整備され、町の重要な文化財として守っていることを知り、地域の方々の想いを感じ取ることができた。

【生徒の授業日誌より】

・立科は自然がいっぱいだから、リンゴやブルーベリー、ぶどうなどの果物や米、野菜を作るにはとてもいいところだと思いました。農家さんはこんなに時間をかけて作ってくださっていて、それを私たちはいただいているので、感謝して残さず食べなきゃなと思いました。

・5年生の少年たちが芦田という町を知るために探検した際、タイムスリップし武士に出会い、その歴史を知るという話だった。芦田城は今では街並文化財に指定されたり、保護され、歴史が深いということを知り、立科・芦田は本当に歴史のあるところだと改めて知った。

・昔やっていたりんご畑の作業を思い出した。でも自分は一部を手伝っただけだったので、自分の見た景色などとは違った大変さがあった。

芦田城のことをあまり知らなかったが、今回いろいろ知ることができた。少ない兵士の数で、芦田城の殿様が勝ったのには驚いた。とても強かったということがわかった。

・普段何も考えずに食べていたりんごには、1年を通していろいろな作業があってこそ美味しい味になっているんだな、ということがわかった。花を摘むことで一つ一つのりんごに栄養がいくように考えられていて凄いなと思った。

今回の授業で初めて立科に城があったことを知った。芦田城には有名な徳川や上杉が関わっていたことがわかった。芦田の殿様が意外に強くてびっくりした。11の城に攻め勝っていてすごいと思った。殿様と市民の中がすごくいいなと思った。長野を離れても芦田のことを考えていたということもすごくいいなと思った。

・りんごの作業は昨年手伝ったことがあったので知っていたけど、なぜ立科でりんごが作られるようになったのかは知らなかったのを知れて良かったし、驚いたこともたくさんあった。今年も手伝える時間があればたくさん手伝いたいと思った。

芦田城の歴史について詳しく知らなかったのでも、学ぶことができてよかった。徳川家康や武田信玄などの人物が深く関わっていたことにびっくりした。

・りんご作りにはたくさんの時間がかかっていることがわかった。蓼高タイムでりんご農園に行った時に摘花作業を手伝ったけど、とても大変でびっくりした。

芦田城には兵士が800人しかいないのに関わらず、戦いに勝利していると知りすごいと思った。立科にも歴史のある芦田城があり、行ってみたい。